

平成28年度ヘルスプランぎふ21推進会議 議事概要

- 1 日時 平成29年2月27日(月) 13時30分～15時40分
- 2 場所 岐阜県庁 7北1会議室
- 3 出席者 13名

	団体名	委 員		
		職名	氏 名	備 考
1	岐阜大学	名誉教授	岩田 弘敏	
2	岐阜県医師会	会長	小林 博	代理 堀部 廉
3	岐阜県立看護大学	教授	会田 敬志	
4	朝日大学	教授	磯崎 篤則	
5	食育推進会議	委員長	道家 晶子	
6	地域職域連携推進部会	部会長	上村 博幸	
7	岐阜大学	教授	春日 晃章	
8	岐阜県地域女性団体協議会	副会長	三輪 やよい	
9	岐阜県国民健康保険団体連合会	常務理事	河合 正明	
10	岐阜労働局労働基準部	労働基準部長	唄 繁樹	欠席
11	岐阜県学校保健会	副会長	中川 敏彦	
12	市町村保健活動推進協議会	保健師部会長	中本 正美	代理 小洞 尚子
13	岐阜県保健所長会	会長	竹腰 知治	
14	岐阜県精神保健福祉センター	所長	丹羽 伸也	

4 事務局 7人

1	保健医療課	課長	小山 貴広	
2		保健企画監	山田 しのぶ	
3		主幹	吉村 隆子	
4		技術主査	横山ひろみ	
5		技術主査	安江 亜希	
6		主任技師	濱塚 久美	
7		係長	井田 智子	

5 会議内容

■委員長選出

- ・委員互選により岩田委員選出

■報告事項

- (1) ヘルスプランぎふ21 推進会議地域・職域連携推進部会の報告（上村委員）
 - (2) 食育推進会議の報告（第3次岐阜県食育推進基本計画策定について）（道家委員）
 - (3) 県民栄養調査結果について（事務局）
 - (4) 県民健康意識調査結果について（事務局）
 - (5) 岐阜県の現状と県民健康実態調査結果について（事務局）
- ・県民健康実態調査結果の標準化該当比について、該当人口すべてをカバーしているわけではないため、有意に差がある場合以外は誤差の可能性もある。そのため地図の色分けなど一般の人が誤解しないような配慮が必要である。
 - ・県民健康実態調査に今回協力が得られなかった医療保険者へ引き続き協力を求めている事は必要である。

■議事

第3次ヘルスプランぎふ21の改訂に向けて

- (1) 第2次ヘルスプランぎふ21の取組と目標等の達成状況について
 - (2) 第3次ヘルスプランぎふ21の方向性と策定スケジュールについて
- ・各種データを2次医療圏ごとに出すことはできないか。それによって各地域でデータを良くしようと頑張ることにつながるだろう。
 - ・がん検診受診率の向上には、保健師の力が必要である。一方では、かかりつけ医からの受診勧奨により受診率がアップしている自治体もあり、医師会からの積極的なアピールも効果的である。
 - ・ヘルスプランぎふ21の目標値に健康寿命の延伸があるが、理想は平均寿命と健康寿命が近づけばよいことであり、目標値に健康寿命のみが上がっていいのか検討の必要があるのではないかな。
 - ・死因の第4位は肺炎で、順位は上がってきている。次の第3次計画の中で考えていく必要があるのではないかな。
 - ・8020運動を進める中で、歯周病が増えるという現状がある。
 - ・食に関する目標値の達成状況は不十分であり、食育計画とも関連させ達成率が上がるよう留意したい。また、健康診断の機会に野菜の摂取や減塩などを意識する機会となるよう指導をしていただくとよいのではないかな。
 - ・地域自殺対策センターが来年度から始まる。支援者となる市町村職員の支援に出かけていく事になる。
 - ・社会保険から国民健康保険へデータが引き継がれないため、若い時にどんな健康状態であったかが把握できず課題となっている。厚生労働省がマイナンバーと連携したデータ管理等に乗り出しどの保険に加入していても一貫して管理ができるようになる動きもある。
 - ・岐阜県の12歳の歯の状況については、例年全国よりもデータが良い。学校保健安全法の変更により運動器検診として四肢と背骨の検診が、小学校、中学校、高校において実施されるようになった。また中学校では心電図が、4誘導から12誘導になった。
 - ・退職等により社会保険から国民健康保険に変わるが、透析などは医療費が高く大きな課題であり、県の次期健康増進計画にCKDをどう位置付けていくのか。
 - ・健康づくりは町づくりであるという概念も大事である。健康に関心のない人いかに参

画してもらうかを考えていく必要がある。

- 子供の朝食欠食率については、目標値の0%に達成していないが、ほとんどの子どもが朝食をとっており、朝食をとっていない2-3%の家庭的な課題等を抱えた子どもたちをいかに支援していくかが重要である。
- 子どもの飲酒や喫煙について、保健所で実施している薬物乱用出前講座の中に、飲酒の害も取り入れたらどうか、という動きもある。
- 運動について、運動指導員やインストラクターなどを増やし、地域に有資格者を置くなど運動に関する取組を強化するとよい。

■結果

平成28年度に実施した各種調査に関して、データの読み取り方や表記方法などについて助言を得ることができた。

第2次ヘルスプランぎふ21の目標等の達成状況について、各領域の現状値に対する改善に向けた提案や、計画改定時の目標項目設定についての意見などを聴取することができたため、第3次ヘルスプランぎふ21の改訂作業時に参考にしていきたい。